

令和3年11月2日
(2021年)

吹田市長 後藤 圭二 様

地方独立行政法人市立吹田市民病院評価委員会
委員長

高杉 豊



地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期目標期間の業務実績の見込み評価
に係る意見について (答申)

令和3年10月12日付け3健健第810号にて市長より諮問のありました標記のこと
について、下記のとおり答申いたします。

記

地方独立行政法人市立吹田市民病院第2期中期目標期間の業務実績の見込み評価結果
(案)については、妥当であると判断する。

なお、今後の病院運営に当たっては、以下の意見を踏まえつつ、市立病院としての役割を
確実に実施し、地域に必要な医療を継続的に提供されたい。

1 救急医療について

第2期中期目標期間中は、24時間365日の受入れ体制を確保することができたが、時
間外救急受入件数や救急専用病床稼働率は目標値を超えることはできなかった。

救急医療は、市の中心的な役割を担う市民病院としても重要な医療であるため、更なる受
入れ体制強化に努めていただきたい。

2 災害医療について

第2期中期目標期間中は、大阪府北部地震の発生や、新型コロナウイルスの感染拡大など
により、平時とは異なる医療提供を求められたが、患者の受入れや他の医療機関との連携な
ど積極的な対応ができていた。

今後はこれらの経験を活かし、有事の医療体制の方針を明確化して、災害時に迅速に対応
できる体制づくりを平時から心掛けていただきたい。

3 リハビリテーション医療について

回復期リハビリテーション病棟の開設後も、さらなる施設基準の取得を図り、365日リハビリテーションを行う体制を整えた。

医療需要が変化していく中ではあるが、引き続き、在宅医療などの後方支援にも取り組み、リハビリによる患者の自立を促していただきたい。

4 地域の医療機関（かかりつけ医）との機能分担・連携について

新規で開業した医療機関には速やかな訪問を行い、かかりつけ医の登録数を増加させた。また、継続的な直接訪問で連携を図り、患者向けにかかりつけ医利用の啓発などを行ったことで、高い紹介件数及び逆紹介件数を維持し、一定の成果を上げている。

今後も患者への切れ目のない医療を実現できるよう、地域医療機関との連携を密にし、かかりつけ医の定着に努めてもらいたい。

5 財務基盤の確立について

施設基準の取得や新規入院患者の受入れ、人件費や材料費等の費用の節減に積極的に取り組んだことで、収支比率の上昇につながり、経営改善の取り組みの成果が表れてきている。

今後も引き続き経営改善の取組を継続し、安定した経営を維持していただきたい。